

報告
ストップ温暖化センターみやぎ

1人ひとりができる地球温暖化防止



脱・二酸化炭素連邦みやぎ形成フォーラム パネルディスカッション
「家庭の省エネ、太陽光発電、屋上緑化など市民の実践紹介します。」

馬場 正子さん(塩竈市)
「やさしい夫の協力がポイント！」

門田陽子さん(MELON 理事)の講演会がきっかけで、電気使用量メーターのチェックを始められました。家族の皆さんの協力のもと省エネを実践することで、1ヶ月の電気使用量が1年前に比べて46.8%も削減できたそうです。

また、家庭での取り組みがきっかけで、ご主人が職場のホテルで省エネの取り組みをされたそうです。家庭での取り組みから企業での取り組みへつながった話がとても印象的でした。

佐々木 直英さん(中田町)
「田舎ならではの省エネは楽しい！」

複数の家庭が参加してグループで省エネに取り組む「省エネ共和国」での、エコクッキングや野菜作りについて紹介されました。自分達の食べるものを自分達で作ることで生産現場から食卓まで運ばれるまでに使われるエネルギーを節約する、ご本人いわく「田舎ならではの省エネ」方法を紹介していただきました。畑でとれた大きなサツマイモを見せていただくなど、グループで楽しく取り組んでいる様子が伝わってきました。



西崎さん宅の
太陽光発電

荒井 美佐子さん(仙台市青葉区)
「ビルの上でも緑のある生活」

仙台市の中央通り・アーケード沿いにある店舗兼ご自宅の屋上に「屋上緑化」を導入したきっかけは、同居されているご両親に「ビルに住んでも一戸建てのように緑のある生活をさせたい」という考えからだそうです。

夏でもビルの屋上とは思えないほど風が涼しいことや、埋めた生ゴミからかぼちゃが育ったお話など、緑や土がある楽しみについてもお話いただきました。



西崎 友一郎さん(仙台市太白区)
「太陽の力をフル活用！」

自宅を建てるときに2.0kWの太陽光発電と太陽熱利用のシステムを導入されたそうです。家庭で使用する電気代の70%ほどをまかない、大きなトラブルもなく発電できているということでした。「雨水タンクの水を水洗トイレに利用しているが、寒い時期に凍ってしまいヒーターで温めるため、逆にエネルギーを使ってしまった」という失敗談は、これから導入をお考えの方にとっては先輩からのよい教訓となったのではないのでしょうか。

岩崎 玲子さん(多賀城市)
「県民からたくさんアイディアが！」

ストップ温暖化センターみやぎで募集し県民から寄せられたみやぎの地球温暖化対策についての意見が紹介されました。国、地方自治体、企業、個人で取り組むべき内容のそれぞれについて多くの意見・アイディアが寄せられたこと、地方自治体レベルで取り組みそうな対策についての関心が高いこと等をあげ、こうしたアイディアを検討していくことの重要性について話されました。

※宮城県地球温暖化対策地域協議会とは？／宮城県地球温暖化対策地域協議会は、地球温暖化対策の推進に関する法律第26条の規定による協議会として、温室効果ガスの排出抑制措置等について協議するほか、地域協議会を県内各地域に芽吹かせ、取り組みの成果を全県的に波及させることを目的として、2003年3月に発足しました。現在、30市町村、宮城県、MELONが参加しています。

※屋上緑化／ビルの屋上などに木や花を植えることによって、直射日光による建物の温度上昇を緩和することから省エネ効果があるとして注目されています。その他にも都市の景観や安らぎなど様々な効果があります。

※省エネ共和国／(財)省エネルギーセンターが支援する、省エネ推進活動の実践をするグループのこと。共和国を設立する(グループをつくる)と省エネルギーセンターからの様々なサポートが受けられます。